

# 地方創生関係交付金 *(2021年度の活用実績)*

# 2021年度 地方創生関係交付金の活用実績

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
地方版総合戦略	福山市総合戦略 (期間:2015年度～2020年度)						福山みらい創造ビジョン (期間:2021年度～2025年度)			
地方創生先行型	【完了】									
地方創生加速化交付金		【完了】								
地方創生推進交付金		【完了】だれもが挑戦できるまちづくり								
		【完了】地域資源を活用したまちの魅力・活力創出事業								
		【完了】女性キャリアデザイン支援事業								
		【完了】プロフェッショナル人材活用及び産学官連携による人材スキルアップ事業								
		【完了】備後圏域の魅力ブラッシュアップ事業								
					継続 ①	福山城築城400年を核とした地域活性化プロジェクト				
					継続 ②	【完了】地方における多様な働き方実現プロジェクト				
						継続 ③	本格的な人口減少対策～ベルソナマーケティングによる戦略的な施策展開～			
						継続 ④	Society5.0へのチャレンジ～新たなライフスタイルを実現できる都市スマートシティふくやま～			
						継続 ⑤	福山版MICEの推進～都市のポテンシャルを引き出し、経済を活性化する～			
						新規 ⑥	稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース			
						2022年度新規 ⑨	福山市地域戦略～多様な主体と共に創る地域づくりの推進～			
						2022年度新規 ⑩	外国人が暮らしやすく活躍できるまちづくり			
地方創生拠点整備交付金		【完了】水呑交流館								
		完了 ⑧	【完了】美術館茶室							
まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 (企業版ふるさと納税)			【完了】夢・希望の実現による福山未来づくりプロジェクト							
				継続 ⑦	福山城築城400年～城のあるまち福のまちプロジェクト～					

# 1 地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2021年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山城築城400年を核とした地域活性化プロジェクト	計画期間	2019年度～2022年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2019年度 実績額 29百万円 (14百万円)	2020年度 実績額 10百万円 (5百万円)	2021年度 実績額 27百万円 (13百万円)	2022年度 計画額 51百万円 (25百万円)	合計	117百万円 (58百万円)
概要	福山城築城400年の取組を通じ、歴史や文化、伝統産業を担う人材を確保するとともに、歴史・文化資源を新たな人の流れを作り出す資源に変化させる。									

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2019年)	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	目標値 (2021年)	目標値 (2022年)
総観光客数	725万人 (2017年)	630万人	379万人	354万人	800万人	825万人
福山市文化ゾーンの来場者数	410千人 (2017年)	351千人	131千人	124千人	417千人	437千人
2022年に福山城が築城400年を迎えることを知っている市民の割合	40.7% (2018年)	46.8%	45.8%	61.8%	70.7%	85.7%

※総観光客数は、2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出

## 2 主な事業内容

### (1) 福山城築城400年記念事業（実績額：18百万円）

※企業版ふるさと納税充当額：0.5百万円

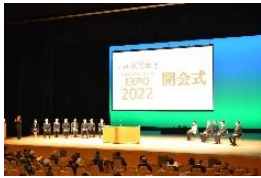
福山城築城400年を契機として、歴史・文化資源等の価値の磨き上げや魅力発信を行い、城があるまち福山を市民全体の誇りとする。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福山城400年博の開催</li> <li>○ カウントダウンイベントの実施</li> <li>○ 情報発信の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福山城400年博スタートイベント（2022年1月8～9日） （開会式参加者数：350人、出張！お城EXPO来場者数：570人）</li> <li>○ 福山城のカウントダウン400日前「謎解き街歩き」（2021年7月24日～11月7日）（参加者数：466人）</li> <li>○ カウントダウン300日前「ジャスピアノ」コンサート（2021年11月1日）（来場者数：400人）</li> <li>○ 市民企画事業の募集及び実施（採択数：33事業）</li> <li>○ ロゴマークを活用したPR（のぼり、バナー、懸垂幕等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福山城築城400年に関する市民認知度の更なる向上及び、取組への市民参加が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市民を巻き込んだ取組を進め、心に残る福山城築城400年事業にする。</li> <li>○ 福山城築城400年以降も、歴史文化への関心が一層高まるよう、資源の磨き上げや情報発信を行う。</li> </ul>

### (2) 史跡福山城の科学的調査事業（実績額：8百万円）

福山城の歴史・文化的価値の再調査を行い、保存整備や国宝化につなげる。

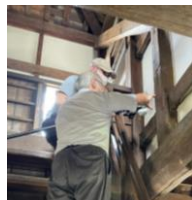
2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重要文化財福山城伏見櫓の学術調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福山城伏見櫓の公開（2021年11月3日）（参加者数：107人）</li> <li>○ 櫓台の測量調査</li> <li>○ 赤外線による墨書調査の実施（確認できた墨書261点）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伏見櫓を含めた福山城の歴史的・文化的価値が、顕在化されていない。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伏見櫓の国宝化に向け、京都伏見城との関連性を示す資料などの発見につなげるため、継続した資料収集や、調査研究を進める。</li> </ul>



【福山城400年博開会式】



【福山城伏見櫓】



【赤外線による墨書調査】

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 緊急事態宣言の発出などコロナ禍の影響により目標値には届いてはいませんが、福山城400年博や市民企画事業等の実施、情報発信の強化等により、築城400年の機運の盛り上がりや市民等の認知度向上については相当程度の成果があったのではないかと考えられる。</li> <li>○ 広報紙・テレビCM等により認知度は上がった。全国から人が集まる仕掛け作りが必要。</li> <li>○ 福山市のシンボルの存在で話題になることも多い。若者にも認知されるようSNSを利用した効果的な告知の強化をすべきと考える。</li> <li>○ 福山城築城400年を一過性のものにせず、今に蘇った城郭史上価値ある福山城の魅力を発信していくための事業や活動を継続していくことが必要。</li> </ul>	

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。（2022年8月10日～19日 書面開催）

計画名	地方における多様な働き方実現プロジェクト	計画期間	2019年度～2021年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2019年度 実績額 12百万円 (6百万円)	2020年度 実績額 8百万円 (4百万円)	2021年度 実績額 13百万円 (6百万円)	合計	33百万円 (16百万円)
概要	兼業・副業など人材や活動場所をシェアする取組を市内企業に広げ、多様な人材や企業、仕事の集積につなげる。								

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業 開始前	実績値 (2019年)	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	目標値 (2021年)
交流拠点を活用し、兼業・副業の人材を受け入れた市内企業の数	—	0社	0社	4社	10社
交流拠点の利用者数 (※)	—	2人 (0人)	245人 (15人)	347人 (26人)	2,650人
交流拠点の活用から既存の創業相談窓口Fuku-Bizに創業相談した件数	—	0件	0件	0件	30件

2 主な事業内容

※ワーケーション協力施設(コワーキングスペース等)の利用者数及びセミナー等で兼業・副業人材活用に関する交流をした人数( )内は、兼業・副業人材活用に関する交流をした人数のみを記載

(1) ワーケーション推進事業(実績額: 7百万円)

首都圏等の人材や企業に福山で働く・暮らす体験や地域との交流機会を提供し、新たな働き方の促進と継続的な人の流れの創出につなげる。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 受入環境の整備</li> <li>○ 首都圏等の企業・人材と市内企業や地域とのマッチングの促進</li> <li>○ 備後圏域での連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿泊施設やコワーキングスペースなど、市内でワーケーションを体験できる施設を協力施設として登録(新規登録:3施設(計19施設), 利用者数:321人)</li> <li>○ ワーケーションで本市を訪れた企業・人材と市内企業や地域をマッチング(マッチング数:5件)</li> <li>○ 備後圏域周遊型ワーケーション(モニターツアー)の実施(参加者数:11人(3社))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワーケーションを通じた市内外の人と企業等のマッチングを強化するとともに、継続的な関係を築く仕組みが必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワーケーション体験者を始めとした関係人口や移住者、地域のキーパーソン、市内企業等をつなぐオンラインコミュニティ等を構築するとともに、多様な主体のネットワークづくりを担うコーディネーターを確保・育成する。</li> </ul>



【備後圏域周遊型ワーケーション】

(2) 高度専門人材活用推進事業(実績額: 3百万円)

市内企業における兼業・副業人材の受入事例を創出し、事例を共有することで、市内企業への普及促進をめざす。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 兼業・副業セミナー開催</li> <li>○ 市内企業と兼業・副業人材のマッチング事例の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内企業を対象とした兼業・副業人材活用セミナーを開催(参加企業数:8社)</li> <li>○ 企業課題の整理や解決方法の検討に向けた個別相談会を開催(参加企業数:10社)</li> <li>○ 市内企業と兼業・副業人材をマッチングし、企業が抱える経営課題の解決を支援(マッチング数:4件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 兼業・副業人材の活用促進に向け、市内企業へ兼業・副業人材の活用による有用性を周知する取組が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内企業に兼業・副業人材の活用事例を情報発信し、活用を促進する。</li> <li>○ 「兼業・副業」と「地域体験・学び」を組み合わせた新たな働き方を構築し、市内外に発信する。</li> </ul>



【兼業・副業人材活用セミナー】

事業の評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワーケーションはコロナ禍であるが故の新たな機会創出が可能と考えられるため、持続的な事業実施を期待する。福山市を選んでもらう動機付けが重要であると考ええる。</li> <li>○ 働き方改革の促進は、地方においては好機でありアフターコロナにおける継続的な交流機会の創出に繋げる事業として粘り強く行う必要がある。活用状況の企業数も実績が上がり今後に繋がるものとする。</li> <li>○ KPI実績については、コロナ禍の影響が続いたこともあり、目標未達成もやむを得ないとする。首都圏等の高い業務スキルを有する兼業人材等の受入は、地元企業にとっても企業内でのスキル共有などのメリットもあると考える。</li> <li>○ 高度専門人材活用等についてニーズ発掘など一歩踏み込んだ情報発信が必要。</li> <li>○ 兼業・副業人材活用の他都市の成功事例を紹介しながら地元企業にその有用性を伝える取組を増やしてほしい。</li> </ul>	

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2022年8月10日～19日 書面開催)

# 3 地方創生推進交付金を活用した事業の状況 (2021年度実績)

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	本格的な人口減少対策～ペルソナマーケティングによる戦略的な施策展開～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金充当額)	2020年度 実績額 6百万円 (3百万円)	2021年度 実績額 22百万円 (11百万円)	2022年度 計画額 32百万円 (16百万円)	合計	60百万円 (30百万円)
概要	ペルソナマーケティングによる施策の再構築を進め、若者や子育て女性にとって働きやすい・住みやすい地方都市を実現する。								


## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	目標値 (2021年)	目標値 (2022年)
女性向け合同企業説明会での内定者数	—	2人	1人	7人	11人
自分の時間が持てると回答した子育て共働き女性の割合	82.4% (2019年)	—	80.4%	100%	100%
企業・団体等が新たに連携して実施した子育て支援の取組数	—	0件	6件	7件	19件

## 2 主な事業内容


### (1) 女性雇用対策事業 (実績額: 1百万円)

女性活躍推進の啓発のほか、仕事と子育て・妊娠を両立できる環境づくりに向けた企業の働き方改革の実践に対する支援を行う。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>女性向け合同企業説明会の実施</li> <li>女性のためのwithコロナの就活セミナーの実施</li> </ul>  <p>【女性向け合同企業説明会・面接会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の「女性が働きやすい企業」を中心とした、女性向け合同企業説明会を実施(参加者数:20人, 参加企業数:14社, 就職数:1人)</li> <li>働き方改革や女性活躍の視点からオンラインセミナー「女性のためのwithコロナの就活セミナー」を実施(参加者数:5人)</li> <li>参加企業から「働き方改革を企業内で進めていく上での考え方や事例等が非常に参考となった」との意見があった。</li> <li>ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者のうち、特に優れた取組を行っている事業者を男女共同参画フォーラムで表彰(1社)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同企業説明会において、マッチング率を向上させるための仕組みづくりが必要。</li> <li>ワークライフバランス推進のため、企業の生産性向上に向けた支援が必要。</li> </ul> <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女性向けとシニア向け合同企業説明会を同時に実施し、参加者マッチング率を向上させる。</li> <li>企業のICT導入など生産性向上に向けた支援策の周知を強化する。</li> <li>ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者の「見える化」を進め、働きやすい職場環境づくりに取り組む認定事業者を認知してもらう。</li> </ul>

### (2) 子育てパパ活躍ウィーク (実績額: 1百万円)

父親の家事・育児参加を促進し、子育て世帯を社会全体でサポートするため、働き方及び意識改革の実践に対する支援を行う。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てパパ活躍ウィークの実施(2021年11月3日～11月23日)</li> </ul>  <p>【親子ヨガ&amp;運動あそび教室】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の子育て参加を推進する企業(応援企業)や、親子で楽しめるイベント等を実施する企業・団体(連携企業・団体)を募集し、広報・SNS等で発信(応援企業11社 参加者約280人, 連携企業・団体6社 参加者約100人)</li> <li>民間企業と連携し、家事・育児に関するパパ、ママの声や、パパが家で作れるレシピ等をまとめた「パパ活躍BOOK」を作成し、応援企業に配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加企業が限定的であるため、市内の幅広い企業へ参加促進の取組が必要。</li> </ul> <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てパパ活躍ウィークの認知度を向上させ、より多くの企業・団体にオンラインを含めて参加してもらえよう、効果的な周知・啓発に引き続き取り組む。</li> </ul>

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 女性雇用対策・子育て世帯サポートは、職場環境づくりが不可欠だと考える。事業者への認識を今後どう広めていくかが課題。</li> <li>○ 女性にとって働きやすく、世帯にとって子育てしやすいとの声が圧倒的に多かったのは高い関心の現れと考える。</li> <li>○ 女性向け合同企業説明会を通じての内定には必ずしも結びつかなかった事は課題。オンラインに面談を入れたハイブリッドの説明も機を逃さず行うなど工夫が必要。取組事例の動画やパンフによる認知度向上は有効と考える。</li> <li>○ 子育て世代にアピールできる内容を検討することが必要。</li> <li>○ 子育て女性にとって働きやすい都市にする為の活動は非常に重要。この分野で他の都市と比べて差別化ができるかを意識し、より積極的な支援策を実施すべきと考える。</li> </ul>	

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2022年8月10日～19日 書面開催)



# 地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2021年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	Society5.0へのチャレンジ～新たなライフスタイルを実現できる都市スマートシティふくやま～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金充当額)		2020年度 実績額	35百万円 (17百万円)	2021年度 実績額	77百万円 (39百万円)	2022年度 計画額	167百万円 (83百万円)	合計	279百万円 (139百万円)
概要	先端技術とデータの活用による新たなライフスタイルを実現できる都市をめざす。												

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	目標値 (2021年)	目標値 (2022年)
ICT等を活用した健康サービスを利用する高齢者の割合	—	未実施	0.2%	3.5%	4.5%
地域事業者と連携した新たなサービス数	—	1件	2件	1件	2件
ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者数	105社 (2018年)	135社	140社	140社	150社

## 2 主な事業内容

### (1) 先端技術活用推進事業（実績額：50百万円）

先端技術を活用したサービスの実証実験や、中小企業・地域のデジタル化を推進する。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産業・地域のデジタル化や課題解決支援</li> <li>○ 子どもたちがデジタル技術に触れる機会の提供</li> <li>○ 先端技術を活用した実証実験の実施や支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産業や地域のデジタル化を推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT導入や活用に対応する相談窓口「びんごICT相談所」を設置・運営(対象:備後圏域企業等, 相談件数36件)</li> <li>・企業のデジタル化について、課題や成功事例等を共有する「びんごデジタルラボ」の運営(備後圏域企業対象, 参加企業数:約160社)</li> <li>○ 子どもたちを対象に、デジタル技術を体験できる「びんごキッズラボ」をオンライン開催(視聴数:約600PV)</li> <li>○ バス型車両による自動運転実証実験を実施(2022年3月22日)</li> <li>○ 実証実験まるごとサポート事業の実施(支援決定数:2件)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンスタンドでのドローンのシェアリングに関する実証実験</li> <li>・「空飛ぶクルマ」衝突防止自動管制技術の実証実験</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル化を進める必要性について、企業や地域の意識醸成が必要。</li> <li>○ デジタル化を進めるためのサポート体制の強化が必要。</li> <li>○ 企業のチャレンジを受け入れる都市としての更なる認知度向上が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内企業の事例なども使った啓発セミナーを実施する。</li> <li>○ ICT相談について、現地で対応する伴走型の支援機能を拡充する。</li> <li>○ 市外企業に向けた「まるごと実験都市」の周知を強化し、地域課題を解決するサービスの創出につなげる。</li> </ul>



【自動運転実証実験】

### (2) タブレット端末を活用したフレイルチェック（実績額：8百万円）

タブレット端末を活用したフレイルチェックにより、高齢者が楽しく使用し、分かりやすい結果の表示につなげる。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フレイルチェック会にタブレット端末を導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 10月からタブレット端末を活用したフレイルチェックを実施(対象者:おおむね65歳以上の高齢者, 参加者数:109人)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい結果の表示</li> <li>・過去の結果との比較の可視化</li> <li>・フレイルチェック結果の確認や測定にかかる時間の短縮</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フレイルチェック会以外にも高齢者がタブレット端末を活用したフレイルチェックができる機会が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フレイルチェック体験会の実施など、タブレット端末の活用機会を拡充する。</li> </ul>



【フレイルチェック会】

事業の評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル化ICT化の推進に向けた様々な取組が行われており、中小企業のデジタル化の意識の醸成に一定程度効果があったと思われる。</li> <li>○ 企業に対する助成措置の拡充や積極的な伴走支援等を行っていく必要がある。</li> <li>○ 実証実験やデジタル化を促す仕組みができてきたので、今後新しい取組を積み上げていくことが重要。特にICT相談所についてはその存在の周知と利用を促すための事例紹介などが有効と考える。</li> <li>○ 大人も子どもも遊びながら先端技術に触れ合うことのできる場を設け、デジタル化の魅力とその必要性を訴求する取組が必要。</li> <li>○ スマホ・タブレットを活用した取組は、今後も継続実施することでデジタル化への意識醸成が確立されると考える。</li> </ul>	

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2022年8月10日～19日 書面開催)

# 5 地方創生推進交付金を活用した事業の状況 (2021年度実績)

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山版MICEの推進～都市のポテンシャルを引き出し、経済を活性化する～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2020年度 実績額 9百万円 (5百万円)	2021年度 実績額 18百万円 (9百万円)	2022年度 計画額 48百万円 (24百万円)	合計	75百万円 (37百万円)
概要	MICEを通じて、国内外から新たな人や企業の流れを創出し、都市の持つポテンシャルを引き出しながら、地域経済の活性化につなげる。								

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	目標値 (2021年)	目標値 (2022年)
福山市におけるMICE開催件数	58件 (2018年)	16件	18件	66件	75件
総観光消費額	32,301百万円 (2018年)	18,723百万円	20,955百万円	35,167百万円	36,631百万円

## 2 主な事業内容

### (1) 世界バラ会議福山大会の開催に向けた取組 (実績額: 13百万円)

2025年(令和7年)の世界バラ会議福山大会を、ばらのまち福山にふさわしい大会となるよう市民と行政の協働により創り上げる。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第20回世界バラ会議福山大会2025実施計画の具体化に向けた取組</li> <li>○ 広報事業の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大阪・関西万博との連携事業に向けた日本国際博覧会協会との協議</li> <li>○ 世界バラ会議福山大会ホームページ(15,271PV)やSNS(Twitter, Facebook, Instagram)を活用したPR (SNS登録者数403人)</li> <li>○ 福山大会を盛り上げ応援する取組を応援宣言として募集(登録数436件)</li> <li>○ 大会ロゴを通じたPR(ポスター・ピンバッジ・のぼり旗)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界バラ会議福山大会開催の認知度向上のため、更なる周知が必要。</li> <li>○ 受入環境の整備が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大会の準備段階から市民に参画できる機会を創出するとともに、多様なツールを活用した情報発信に取り組む。</li> <li>○ 世界バラ会議福山大会に向けた都市環境整備3か年集中対策で、着実に受入環境の整備を進めていく。</li> </ul>

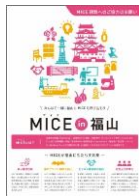


【応援宣言の募集】

### (2) MICE誘致推進事業 (実績額: 2百万円)

MICE誘致ディレクターの知見を生かした首都圏等でのセールス活動を行い、ターゲット分野の誘致を図る。

2021年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ MICE誘致ディレクターとの連携</li> <li>○ MICEの受入体制の整備・強化</li> <li>○ MICE勉強会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光やホテル、バス、タクシー団体などの委員から成る福山市MICE推進協議会を開催(3回)</li> <li>○ 事業者向けMICE勉強会の開催 参加者 46人</li> <li>○ MICEパンフレットの作成・配布 官民一体となってMICEの積極的な誘致を行うとともに、MICEがもたらす効果及び本市でのMICE開催の特徴などを周知するパンフレットを作成し、関係団体に配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誘致活動によるMICE開催実績が少ない。</li> <li>○ コロナ禍で主流となったオンライン開催などに対応した設備(Wi-Fi等)が不十分。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福山城及びその周辺施設のリニューアルに伴い、ユニークベニューの提案など、福山ならではの施設を活用した誘致活動に取り組む。</li> </ul>



【MICEパンフレット】

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界バラ会議開催の認知度は上昇しているが、「市民と協働」はまだ実感されていないと思う。バラ会議が市民にとってどのような意味・メリットがあるかの視点でのコンセプト等の周知が必要。</li> <li>○ コロナ禍で難しい時期であったが、MICE開催実績が少ない。また、オンライン開催は元々関心の高い方の参加は見込めるが、そうでない方には届きにくい。可能な限り対面形式のイベントにすることで、意識の低い人へ発信することが重要と考える。</li> <li>○ MICE誘致にあたっては、関係機関が連携し一体的となった“おもてなし”が必要。例えば、福山城及び周辺及び地域資源等を活用した飲食や物販などの催しを随時展開していく必要があると考える。</li> <li>○ MICE誘致に向けては、大きな効果を発揮するユニークベニューの存在・発掘は必要要素であると考え。</li> </ul>	

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2022年8月10日～19日 書面開催)

計画名	稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース	計画期間	2021年度～2023年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2021年度 実績額	2022年度 計画額	2023年度 計画額	合計
概要	備後圏域全体で経済を支える基盤を構築し、広域連携の強みである多様な人材・産業を生かした持続可能な地域経済を確立する。				12百万円 (6百万円)	23百万円 (11百万円)	16百万円 (8百万円)	51百万円 (25百万円)

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2021年)	目標値(2021年)	目標値(2023年)
域内総生産 (備後圏域市町)	32,425億円(2016年)	— (※1)	33,466億円	34,269億円
従業員1人当たり粗付加価値額	1,079万円(2019年)	— (※1)	1,079万円	1,115万円
福山市への転職者数	10件(2019年)	2件 (※2)	10件	16件

※1…2021経済センサス-活動調査 確定版(市町村単位) 2023年度公表予定  
 ※2…U・Iターン就職登録システム及び社会人インターンシップによる就職者数

2 主な事業内容

(1) 備後圏域の強みを生かした地域商社機能の確立に向けた取組 (実績額: 5百万円)

所得を循環させる地域商社機能について、構築可能な分野や具体的取組及び中長期的なロードマップ等を検討する。

2021年度の主な取組

- 域内循環の強化に向けた最適な手法の検討



【地域資源の付加価値向上セミナー】

実績・成果

- 中国地方の地域商社へ現状と課題に関するヒアリング・アンケート調査(有効回答13件、地域商社の保有機能、販路状況、ブランド構築について等)
- 備後圏域内の事業者へのヒアリング(9社、販路拡大・商品開発・コーディネート機能への課題・求める支援等)
- 関係主体向け業務報告会・地域資源の付加価値向上セミナーの開催(2022年2月17日、3月24日 計53人)
- 総合的地域商社の構築イメージ(案)の作成

課題

- 備後圏域の経済団体が既に行っている支援策との連携・調整が必要。
- 地域商社の持つべき機能や仕組みを検討し、機能の担い手の確保が必要。
- 事業者ニーズに沿った支援の実施。
- 中間支援組織の強化や機能を担う団体・事業者の発掘・選定を進める。

今後の取組

- 事業者ニーズに沿った支援の実施。
- 中間支援組織の強化や機能を担う団体・事業者の発掘・選定を進める。

(2) 人材確保支援事業 (実績額: 6百万円)

企業経営者・人事担当者向けの採用力強化研修を行い、働きやすい職場環境づくりを行う企業と若者等とのマッチングにつなげていく。

2021年度の主な取組

- 福山地方雇用対策協議会と連携した採用力強化研修の実施
- 社会人インターンシップの実施



【社会人インターンシップHP】

実績・成果

- 「オンラインを活用した採用活動」をテーマに、備後圏域企業の経営者・人事担当者向けの採用力強化研修をオンラインで実施(1回開催、参加者数: 17社24人)・参加企業より「ダイレクトリクルーティングなどの手法が参考になった」などの意見があった。
- 都市圏等の転職希望者に向けた社会人インターンシップの実施(参加企業数43社、応募人数813人、インターン実施5人(うち1名はコロナ禍により受入れを中止、就職者数 1人))

課題

- 採用活動についてのオンライン化に対する応募者ニーズが高いため、それに対応できるように市内企業への支援が必要。

今後の取組

- インターンシップなどの採用活動について、効果的なオンライン活用・導入について啓発を行う。
- 企業ニーズと応募者ニーズのギャップを埋める取組を強化する。

事業の評価

事業効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

- 所得を域内循環させる地域商社機能は、関係機関がその必要性と明確な将来ビジョンを持って取り組まないと一過性の取組となる可能性があり、役割分担や住み分けを明確にする必要がある。
- 本事業ではプロデュースを主導する専門人材の配置・活用と備後圏域の価値あるものの発掘がカギとなると考える。
- 備後圏域ではBtoB(企業間取引)の企業が多く、地域商社によるトータルプロデュースが不可欠だと考える。産業支援団体等とも連携した、備後圏域の魅力強化を期待する。
- 備後圏域の企業カアップ及び企業経営者・人事担当者の採用力アップに繋がるよう継続的に実施していただきたい。
- インターンの需要はあると思うので、転職者数の実績は今後増やせるのではないかと思う。

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2022年8月10日～19日 書面開催)



まち・ひと・しごと創生寄附活用事業（企業版ふるさと納税）の状況（2021年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山城築城400年～城のあるまち福のまちプロジェクト～	計画期間	2019年度～2022年度	事業費 (うち寄附金充当額)	2019年度実績額 368百万円 (20万円)	2020年度実績額 370百万円 (12百万円)	2021年度実績額 340百万円 (19百万円)	2022年度計画額 527百万円 (10百万円)	合計 1,605百万円 (61百万円)
概要	福山城やその周辺の整備を進め、歴史・文化資源等の価値向上や魅力発信に取り組む。								

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2019年)	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	目標値 (2021年)	目標値 (2022年)
総観光客数	725万人 (2017年)	630万人	379万人	354万人	800万人	825万人
福山市文化ゾーンの来場者数	410千人 (2017年)	351千人	131千人	124千人	417千人	437千人

※総観光客数は、2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出

2 主な事業内容

2021年度の主な取組	実績・成果	課題・今後の取組
○ 福山城及び周辺整備事業	○ 福山城及び周辺整備事業 ・福山城博物館等の耐震改修 ・福山城公園の施設整備	○ 整備を進めてきた福山城及びその周辺をはじめとする本市の歴史・文化資源等について、価値の磨き上げや市内外への情報発信を進める。



【復元後の福山城天守】



【ふくやま美術館プロムナードライトアップ】

事業の評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
○ 福山城やその周辺の整備により歴史・文化価値の向上に繋がったと考えます。今後は、いかに観光に繋げるかが課題であり、情報発信は特に重要。	
○ 福山城及び周辺整備事業の推進は、福山駅周辺の整備とも大きく関連しており、一体として取り組むことが新たな人の流れを作る上で重要。	
○ 福山駅を中心とした周辺部は美観面は、以前よりも整ってきている事を肌で感じる。街並みについての写真や動画などを、行政のみならず旅行代理店や情報誌とも協同して情報発信し、住みたい街、訪れたい街としての価値を高める工夫が必要。	
○ 最近、テレビ番組や広島駅構内などでも「福山城築城400年」の話題等が多く取り上げられてきており、福山城・福山市のPRが効果的に進んできていると考える。	

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2022年8月10日～19日 書面開催)

## 地方創生拠点整備交付金を活用した事業の状況（2021年度実績）

計画名	ふくやま美術館茶室改修工事	計画期間	2017年度	事業費 (内交付金)	2017年度 実績額
概要	美術館の茶室改修により魅力を向上させ、来館者が茶文化を体験できる環境を充実させる。				24百万円 (12百万円)

### 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業 開始前	実績値 (2017)	実績値 (2018)	実績値 (2019)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	目標値 (2021)
茶室利用による使用料等収入	—	—	333千円	25千円	23千円	37千円	520千円
茶室利用者数	—	—	3,145人	746人	85人	297人	1,040人
文化ゾーンの来場者数(※)	336千人 (2016年)	337千人	404千人	270千人	116千人	109千人	350千人

※県立歴史博物館を除く

### 2 主な事業内容

#### 2021年度の主な取組

- 茶道講座の開催
- 特別茶会の開催
- 市民への貸館

#### 成果

- 茶道講座の開催
  - ・参加者数 160人(全10回)
  - ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、後期講座中止(全10回)
- 特別茶会の開催
  - ・参加者数 98人(全1回)
  - ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、全3回のうち2回中止
- 市民への貸館
  - ・利用者数 39人

#### 課題・今後の取組

- 福山城築城400年事業での活用など、茶室の更なる利用促進を図り、福山城周辺の魅力向上につなげる。



【美術館茶室内の様子】



【茶会の様子】

#### 事業の評価

事業 効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

#### 主な委員意見

- 茶文化の環境保全として大変重要であり福山城周辺の整備により福山市の歴史文化向上に繋がるものと考えている。
- 講座や茶会の定期開催など意欲的な取組がコロナで制限されたが、今後の地域活性化プロジェクトの中で重要な文化施設・交流拠点としての役割を果たしている。
- 改修後にコロナになってしまったので近年の利用者数は減少。茶道講座の中身を一部リニューアルするなど飽きさせない工夫が必要と考える。
- withコロナ・afterコロナを見据えた茶室利用について、福山城や鞆の浦、草戸千軒町、明王院などの歴史資源と連携した、ストーリー性のある魅力づくりに取り組む必要があるのではないかと考える。

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2022年8月10日～19日 書面開催)

## 新たに認定された地方創生推進交付金を活用する事業（概要）

計画名	福山市地域戦略～多様な主体と共に創る地域づくりの推進～	計画期間	2022年度～2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2022年度 計画額	2023年度 計画額	2024年度 計画額	合計
概要	市内外の多様な主体が地域に関わることで、新たな人の流れを創出するとともに、地域の魅力向上につなげる。				57百万円 (29百万円)	43百万円 (22百万円)	34百万円 (17百万円)	134百万円 (67百万円)

### 1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2024年）
ワーケーション事業を通じて立ち上がったプロジェクトへの参加者	— (2021年)	45人
まちづくりサポートセンター登録団体（社）数	197団体・社 (2021年)	237団体・社
「地域資源活用調査」を踏まえた地域資源を活用した事業の実施件数	— (2021年)	6件

### 2 主な事業内容

- 課題解決型の地域づくり，多様な主体と共に創る地域づくりへの転換
  - ・ 課題解決に向けた対策を，地域の幅広い世代や立場の人が主体的に考えていくための外部有識者による支援
  - ・ まちづくりサポートセンターの機能拡充による「多様な主体や地域のマッチング」「多様な主体同士のネットワークの形成」「相談支援」
- 市内外の関係人口の発掘，地域との関係強化
  - ・ ワーケーション人材誘致に向けた情報発信
  - ・ ワーケーション人材同士のネットワークの形成
  - ・ 地域体験ツアー（マイクロツアー）の開催
  - ・ 産学官連携による地域課題の解決
- 地域資源を活用した魅力向上
  - ・ 空き家活用等に向けたガイドブックの作成，所有者への意向調査
  - ・ 空き家活用による人の呼びこみ等を行う地域への支援
  - ・ 地域資源の活用に向けた市場価値の把握や課題抽出などの調査及び地域資源の活用の方向性や方策の検討

## 新たに認定された地方創生推進交付金を活用する事業（概要）

計画名	外国人が暮らしやすく活躍できるまちづくり	計画期間	2022年度～2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2022年度 計画額	2023年度 計画額	2024年度 計画額	合計
概要	外国人が自身の能力を十分に発揮し、地域住民や企業と協力して、まちの活力創出に向けて活躍できる環境づくりを目指す。				2百万円 (1百万円)	6百万円 (3百万円)	3百万円 (1百万円)	11百万円 (5百万円)

## 1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2024年）
「これからも福山市に住み続けたいと思う」と回答した外国人市民の割合	— (2021年)	78%
多文化共生大学の参加者数	83人 (2021年)	490人
外国人が増えることを肯定的にとらえる市民の割合	— (2021年)	55%

## 2 主な事業内容

- 行政・生活情報提供、相談体制、日本語学習支援の充実
  - ・市ホームページ等の多言語変換機能に「やさしい日本語」を追加
  - ・日本語能力が十分ではない外国人市民への対応時に通訳ボランティア派遣
  - ・日本語教室・ボランティア養成講座の開催
- 多様な人が集える場の設置
  - ・外国人市民を対象に、日本語に触れる機会の創出や相談できる居場所づくりを目的としたサロンの開催
- 防災意識の向上、災害時の支援体制の整備
  - ・外国人市民や支援者を対象とした防災教室の開催
- 外国人の活躍支援、多文化共生の推進
  - ・留学生向け合同企業説明会・企業向けセミナー開催
  - ・外国人市民の増加や多国籍化等の環境変化に対応するため、多文化共生推進のためのプランを策定
  - ・外国人市民やその他市民、企業等を交えた多文化共生に係るワークショップの開催
  - ・多文化共生に関する講座、交流イベント等の実施